

観光庁長官賞

神奈川県逗子市における子どもから大人まで楽しめる ご当地スポーツとしてのトレイルランニング

～環境教育との融合を通じた持続可能なアウトドアスポーツ普及への取り組み～

主催：FUJIO PROJECT

<https://www.fujioproject.jp>

近年、地域振興を目的としたアウトドアスポーツ大会が全国的に盛んである。ただし、アウトドアスポーツの普及とともに、競技者のマナーや自然環境への影響等の批判も大きくなっている。この問題に対処するためには、特に子供達に対する教育が必要であると感じており、逗子市を拠点にトレイルランニングと環境教育とを融合させた様々な取り組みを実施している。まず、休日など学校以外での時間を有効に過ごすため、子ども達を対象にマナー普及啓発等の教育を行う「逗子ジュニアトレラン部」を実施している。また、遊ぶ場所は自分達で保全するという心を育むため、「ZUSHI TRAIL WORKS」を通じて、トレイルの保全活動を地域有志と共に行っている。

トレイルランニングの魅力は親子で気軽に楽しめることだ。そのため、親子で一緒に学びながら楽しんでもらうことを意識している。「ジュニアトレイルラン」では、子供のレースとともに、子供の保護者の部を設け、トレイルランニングを親子の共通のキーワードに心がけている。

トレイルランニングが持続可能なスポーツになるためには、マナー啓発と環境教育活動がその地域に住んでいる家族に根付いていることが重要である。幸いにも多くの活動が5年を超え、のべ3000を超える人たちの参加があり、メディアでも取り上げられ地域でも随分と浸透した。「海のまち」として知られる逗子であるが「海と山のまち」として認知される日もそう遠くないはずだ。



電話：090-5305-7773

メール：fujio.miyachi.1130@gmail.com

担当者：宮地 藤雄

スポーツ振興大賞

とびしま海道7つの島、100kmを走る旅

「島を走って、優しさに触れて、思いきって、住んでみんしゃい!!」

主催：とびしまウルトラマラニック実行委員会

<http://tobishima-ultramaranic.com>

広島県呉市及び愛媛県今治市の7つの島が7つの橋で繋がった「安芸灘とびしま海道」を舞台にした、100kmのコースを走るランニングイベント。実行委員長である高島俊思は、地域おこし協力隊として当地域に家族と共に移住した。この地域を元気にする活動を行う中で少子高齢化は深刻な課題だった。この難題に向き合う中で、スポーツイベントを開催し、全国から人を呼び込むことで、いわゆる関係人口を創出し、いずれ「移住・定住」へと繋げることが課題解決への道となると考え開催した。「マラニック」は「マラソン」+「ピクニック」の造語で競争ではなく地域と交流を持ちつつ、食べて楽しむという要素を盛り込んでいる。特徴のある島と橋を全部回るコースで、絶景、柑橘などの特産品、郷土料理、満天の星空、そして補給所での島民のおもてなしで、宿泊を伴う新たな観光コンテンツになる大会を目指した。2019年大会では北海道から沖縄まで479名の参加者を集め開催し、テレビ、新聞等で特集が組まれるなど、地域振興を目的としたイベントとして広く認知されるようになった。また地域には宿泊施設が不足していることから、イベント民泊の制度を活用し、地域の民家にも宿泊してもらい交流を深める取組も行った。



電話：090-5600-6824 メール：syunpalau@yahoo.co.jp

担当者：高島 俊思

スポーツ×ふるさと納税「ふるスポ!」で、 チームのファンが地域のファンに。 スポーツをきっかけとしたシティプロモーションや 地域振興に貢献

地域プロスポーツチームとふるさと納税の掛け算で、
スポーツをきっかけとした関係人口創出に寄与。

主 催：スポーツ・ローカル・アクト株式会社

**協力団体：群馬県前橋市・ザスパクサツ群馬、新潟県長岡市・
新潟アルビレックスBB**

<https://furu-spo.jp/>

スポーツのまちづくりをふるさと納税で応援できる、スポーツふるさと納税「ふるスポ!」WEBサイトを2018年8月からスタートさせました。ふるスポ!を通して集まったふるさと納税が、地域のスポーツ振興などに活用され、プロスポーツチームや大会のファンが「地域のファン」になることを事業の目的に活動をしています。ふるさと納税を通してプロスポーツの活動の応援や、ファンとクラブの接点を地域が創出することができ、プロスポーツチームとの相乗効果でシティプロモーションに寄与できたり、スポーツが地域にある価値を感じてもらえる取り組みになっています。

＜事例1＞群馬県前橋市×ふるスポ!：「日本初」ふるさと納税の返礼品を応援するチームとシェアする取り組みで、地域プロスポーツクラブとファンのつながりを地域が創出し、シティプロモーション・地域のファンづくりに貢献した。

＜事例2＞新潟県長岡市×ふるスポ!：スポーツふるさと納税「ふるスポ!」への寄附（ふるさと納税）を活用し、長岡市内小学校に地元スポーツクラブ新潟アルビレックスBBのオリジナルビブスを贈呈した。地域にプロスポーツのある価値を提供しスポーツのまちづくりに貢献した。



限界集落の小さな挑戦「田んぼでSUP」

居住者37人、平均年齢64.75歳 限界集落が様々なアイデアで
スポーツを通じた地域づくりにチャレンジ !!

主催：丸山自治会

協力：B&G財団

九州中央の山間地に位置する竹田市久住町「丸山自治会」の人口は37人。高齢化率は52%を超えた、小さな集落です。昨年度、第8回スポーツ振興賞に限界集落の小さな挑戦「スポーツ合宿誘致による地域づくり」のテーマで応募をしました。

平成28年度に老朽化した自治会公民館を改修し、スポーツ合宿の拠点施設として令和元年度には延べ700名近い選手を受け入れたものの、令和2年度はコロナ感染症の影響を受け、宿泊受入数は0となり地域活性化の目玉となっていたスポーツ合宿は影を潜めてしまいました。

新たな地域活動を模索する中、丸山自治会の主要産業は農業(水稻)であり、田んぼを使ったスポーツ活動ができないかを考えたところ、周辺地域はプール以外に水遊びができる場所がないことから、SUP体験ができないかとの話になり、B&G財団様から快くSUPの貸出承諾を得て、体験活動実施の運びとなりました。作付け前の田んぼ、3,000㎡に15cm程の水を張り、SUP2艇を浮かべ、4月18日に試験体験、4月25日～5月3日までの土日、祝日に実施したところ、全国的にも珍しい田んぼでのSUPを多くの方に体験していただきました。小さなことですが限界集落が様々なアイデアを出し、地域づくりに取り組む姿を全国に発信できればと考えております。



鳥取県西部ブランディングプロジェクト「大山時間」 『サイクリスト聖地化事業』

鳥取県の商工会が取り組んできた経済活性化地域
ブランディング事業が自転車を活用したまちづくりを
目指す官民連携協議会設立に貢献した4年間

主 催：鳥取県西部ブランディングプロジェクト「大山時間」
米子日吉津商工会（幹事商工会）、大山町商工会、南部町商工会
伯耆町商工会、日南町商工会、日野町商工会、江府町商工会、
鳥取県商工会連合会西部商工会産業支援センター

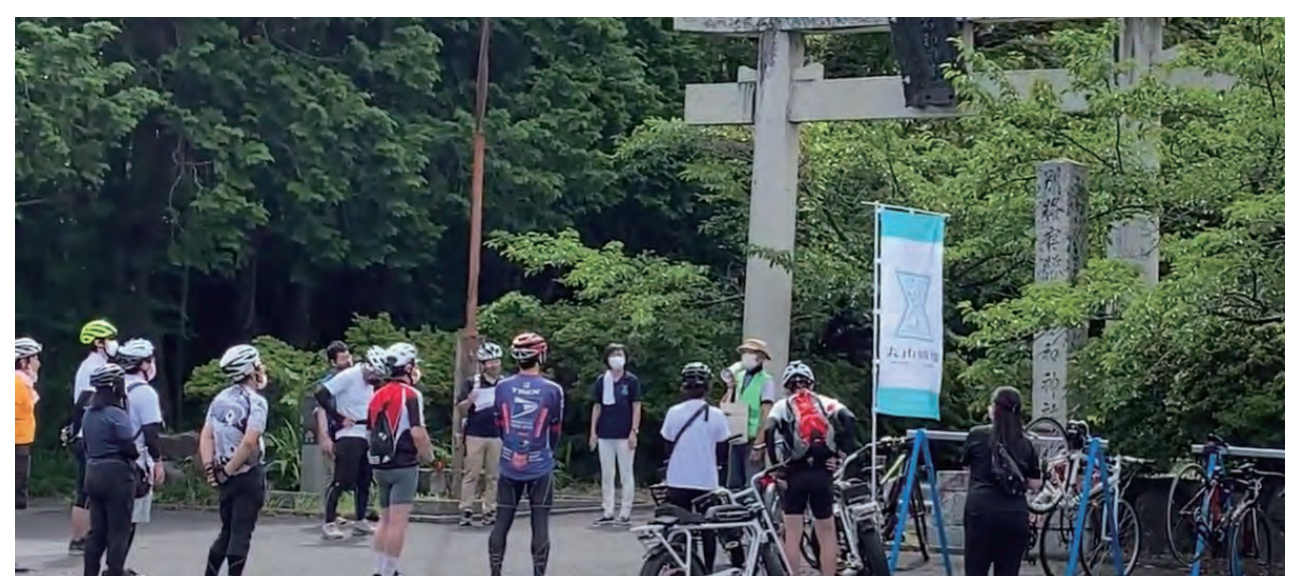
共 催 者：大山山麓・日野川流域観光推進協議会

<https://www.tori-skr.jp/daisen-jikan/>

当会は、管内地域において加速化する人口減少・少子高齢化による、域内事業者の経営環境の悪化、経済の衰退、消費力低下・労働力の減少等に対応するため、地域をブランド化し、資源等地域の魅力を域外に発信し、「サイクルツーリズム」による誘客促進事業を行っています。

具体的には、将来的なターゲットとする欧米豪の富裕層に、サイクリングで当地の魅力を満喫していただける環境を作るため、魅力的なサイクルツアーの造成、プロツアーガイドの養成、受け皿となる地域事業者の商品・サービスの開発及びブラッシュアップ等の事業を行っています。これまで実施した養成講座によりガイド候補者が20名以上生まれ、今年度はいよいよツアーの商品化に取り組んでいます。

また、鳥取県全体での「サイクルツーリズム」による誘客の確立を目指し、説明会やシンポジウム等の自主開催を通じ、商工会だけでなく、国交省や県市町村や議会、サイクル関係団体等にも働きかけ、コロナ禍における自転車利用による観光客誘客とまちづくり（自転車利用環境整備）への理念共有、持続的発展等を提言した結果、「鳥取県サイクルツーリズム推進・連携協議会」や「鳥取県西部サイクリングルート整備検討会」の設立を実現しました。今後は、サイクリストの聖地の証でもあるナショナルサイクルルート指定に向け、域内外で連携し、受け皿づくりを進め、地域事業者の持続的発展と地域経済の活性化に寄与します。



電話：0859-37-0085

メール：tss-sect@tori-skr.jp

担当者：澤田 裕一

特別支援学校在校生及び卒業生を対象としたスポーツ活動 「皆生（かいけ）スポーツ広場」の取り組み

スポーツを楽しみ、共生社会の輪を広げよう！

主催：医療法人 養和会
<https://www.yowakai.com>

平成28年度からスタートした「皆生スポーツ広場」は、鳥取県立皆生養護学校（肢体不自由・病弱特別支援学校）の体育館で、毎月1回2時間、土曜日の午前中に活動しています。鳥取県立皆生養護学校の在校生や卒業生を主な対象とし、参加費は無料です。安心・安全に活動できるよう、施設設備が整い、慣れ親しんだ体育館を使用しています。スポーツ活動の内容は、理学療法士によるストレッチ指導や感覚統合を取り入れたレクリエーションスポーツ、ボッチャ等の障がい者スポーツを中心としたメニューとなっています。メニューによっては歩行可能な方も車いすに乗ってもらうなど、皆が同じ目線でスポーツ活動を楽しめる工夫をしています。

特別行事として、全国障害者スポーツ大会陸上競技の練習会や大会参加、ボッチャを通じた日本代表選手との交流、特別支援学校の放課後ボッチャの練習等があります。過去5年間の参加者は延べ950名（障がい者317名、一般330名、スタッフ303名）。皆生スポーツ広場をきっかけに、鳥取県ボッチャ協会が設立され、県外大会参加のほか、公民館や小学校の人権学習に招かれるなど地域で活躍中です。また毎年、10名程度が鳥取県障害者スポーツ大会に参加し、中には全国障害者スポーツ大会に出場する選手もあり、活動の場が広がっております。



ラグビーワールドカップで生まれた市民活動で 「スポーツでまちづくり」をレガシーに

主催：熊谷ラグビー合唱団

<https://www.facebook.com/SUKumagaya>

2019年に熊谷ラグビー合唱団を立ち上げました。地元開催のラグビーワールドカップ(以下RWC)を市民発信で盛り上げる取り組み「国歌を歌っておもてなし」を推し進める市民団体です。

RWC参加国の国家を練習し、観戦時に選手と共に歌うアイデアを市民に広め、参加を呼びかけました。この活動に対し、大会開催前から参加国への良きおもてなしとして市内外で受け止められ、メディアにも多数取り上げて頂きました。大会後には優勝国南アフリカの駐日大使から直接感謝の言葉も頂きました。

特筆すべきは合唱団の参加者コミュニティがRWC以降も交流を継続し、新たに「ラグビータウン熊谷」を推進する活動を生んでいることです。駅にラグビー情報掲示板を設置、ラグビー観戦客をもてなす「おもてなしハイタッチャーズ」設立、ラグビー場でのコロナ禍の中高生応援企画などです。

熊谷ラグビー合唱団は、「スポーツでまちづくり」をRWCで生まれたレガシーとして継続し、熊谷をより住んでいてよかったと思えるまちにしていきます。



電話：048-522-7717 メール：yoku.kame@gmail.com

担当者：臼杵 健